



栃木県女性団体連絡協議会とは？

設立 1998年4月 32団体で結成

目的 栃木県域の女性団体相互の連絡を密にし、女性問題の解決を図り、男女共同参画社会の実現を目指すことを目的とする

所属団体 2023年11月現在11団体

栃木県ひとり親家庭連絡協議会 とちぎつばさの会
新日本婦人の会栃木県本部 ラポリテイクスとちぎ

宇都宮市女性団体連絡協議会 鹿沼アテップ

とちぎパラレルの会

P・G・Nひまわり パルティショップ委員会

栃木県商工会連合会女性部 栃木県生活協同組合

活動内容

- ・ 県からの委託事業として、グループ・団体活性化セミナー、連携ネットワーク懇談会、役員・リーダー研修会の実施。展示コーナーの運営・管理

2022年度より県民のつどいは委託事業から共催に変わりました。

- ・ パルティ事業への参加・協力 フェスタinパルティ参加
- ・ 全国男女共同参画フォーラム、全国女性会義参加
- ・ 依頼を受けた各懇談会、審議会等への委員派遣
- ・ その他、男女共同参画を目的とした事業への参画



2023年度のテーマ

ジェンダー平等の社会を
～今できることを考えよう～

当会では、全ての人が自分らしく生きるための自主事業として、「自分として今できること」は何かを考え、昨年度はDVについての意識調査を実施し373名の方にご協力して頂きました。

今年度は、多様な人が社会の中で自分らしく生きるためには「今、何が求められているのか」「今、私たちに何ができるか」を考え行動するために「LGBTQへの意識・理解度調査」を実施し現在までに 名の方のご協力を頂きました。

ここでは①上記調査の報告と共に、②男女共同参画社会づくりに向けての全国会議の動画上映とフリートーク実施の「役員・リーダー研修会」 ③それぞれの立場から「皆で語ろう“ジェンダー平等”」をテーマに語りあった「グループ・団体活性化セミナー」等3つののご報告を致します。

2023役員・リーダー研修会実施

2023年7月27日(木) 13:30～15:30 パルティ302研修室

日光市で先進7カ国(G7)男女共同参画・女性活躍相会合が開催される同日、24日に内閣府がライトキューブ宇都宮で「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」が開催されました。全国会議は1993年に始まって以来、初めての東京都外での開催となりました。今年度役員・リーダー研修会は、全国会議での録画上映後、みんなの未来のために「今、できること」をグループに分かれて話し合いました。(参加者21名)



講師 白波瀬佐和子さん

役職 東京大学大学院人文社会系研究科教授

2023年ジェンダー平等アドバイザー評議会(GRAC)議長

講 話 要 旨

○未完のジェンダー平等

・ジェンダーパリティ(男女比が同等)を達成するために要する時間は132年。未だに達成している国はない。日本は125位。

・理念や価値はなかなか変わらない、変わらないからと諦めたら終わり。大多数の中で意見を言うのは勇気がいるが何も言わなかったら受け入れているのと同じ。気づきが最初の一步、自らも関わり、実際の変革まで継続する。

○日本のジェンダー不平等はなぜ大きいのか

・4つの柱からなるジェンダーギャップ指数。・経済的参画

・教育達成 ・健康・寿命 ・政治参画 G7各国でのGGI格差日本だけが下位に止まっている。選択の自由が自分のコントロールできないところで決まっている状況がある。努力以外のところで決まっているので、可能性や才能を開花できない。

○ジェンダー平等を達成するための3つの異なる概念

①ジェンダーパリティ：男女比が同等になることを一つの指標とする統計的視点。

②ジェンダー公正：異なる背景をもつことを考慮に入れて、ジェンダー平等を達成するための過程に着目

③ジェンダー平等：価値・理念、評価等を含む達成する目標としての平等。

○ジェンダー主流化

・ジェンダー的視点をあらゆる政策や計画において主流化する（王道的視点）

○G7広島サミットにあたりGEAC2023による提言を提出

・ジェンダー平等を個別のサブテーマとしない

・ジェンダー主流化の最終目的はジェンダー平等にある。

「2023役員・リーダー研修会」会場写真



全国会議記念講演聴講後、グループに分かれて団体として、個人として「今できること」を話し合いました。

研修後グループフリートーク

- A班 ・ジェンダーパリティを達成するために132年という話を聞いて、頭では「わかっている」話に出てくるものとは違うと感じた。
・世代が変わらないと変革は起きない。同じ場所で足踏み、難しい、132年経っても変わらない
- B班 ・沈黙は美德？と言われる日本に於いて継続はあっても英断は難しい！
・高齢者なりに今後の若者の活動に於いて背中を見せなければと反省した。
- C班 ・政治の世界をはじめ、自治会等地域の身近な活動においても活躍する女性割合が少ない。
・様々な理由があると思うが受けて立つといった女性側の意思の低さもあるのではないかな。
・教育の内容もジェンダー問題を積極的に取り上げるカリキュラムをもつべきだと思う。
次代の人の思い込みを軽減するために。
- D班 ・平等ではあるけれど男女の役割はあるのではないかな。
・ここに来る人は理解しているけれど、、、。

研修会参加者の感想・意見 (アンケートより)

- 理解し行動するのは大変と思った。大変に勉強になった。
- 普段モヤモヤ考えていることを言葉に出すことで少しまとめられたように思う。
- ジェンダーギャップ指数が低迷している主な理由が政治の世界にある。それを解決するには選挙しかないし、また、女性議員の割合をきっちり決めてそれを守らせることが大事と感じた。
- 何かあれば発言しなければ解決にならない。
- 難しい内容ですが、少しずつよい社会になるよう高齢者だが努力したいと思いました。
- 言葉が難しく、理解がよくできなかった。資料があればと思った。
- 高度な講演であったが、ジェンダー平等の今、思い込み、価値観、年齢的なものもありますが、今の空気を読み、自分なりに行動していきたいと思う。
- 講演の内容は大変に難しかったですが、グループ討議は有意義でした。ジェンダーの話は皆さん勉強しているなという感じでした。
- ジェンダー問題は今後も続いて声を上げていかなくてはならないと思う大変な問題と思いますが、先生の言われたようにあきらめてはいけない、自分も周囲も気づき大切だと思います。今後も若い人たちが、考え行動していくことを期待します。
- 大変に参考になりました。・地域の役を引き受け男女共同参画社会の大切さを発信している。
- 子どもに自立、経済力をつけることが必要。
- ジェンダー平等に関心を持っていきたい。自分の家庭の中での実践も大切。
- やはり、女性が政策決定の場に一人でも多く進出して少しずつ世の中を変えていかなくてはと思います。

「LGBTQへの意識・理解度調査」を実施

下記の10項目にチェックしていただきました。

2023/9月実施

- 1 LGBTQ・性的マイノリティという言葉を知っていますか。
- 2 LGBTQって何の略かも知っていますか。
- 3 自分の周りにもLGBTQの人はいると思いますか。
- 4 日本ではLGBTQの人は10%はいるとおもいますか。
- 5 友だちからLGBTQをカミングアウトされたらどうしますか。
- 6 カミングアウトを受けても本人の同意なく他の人に伝えてはいけない。
- 7 LGBTQは社会の中で認知されていると思いますか。
- 8 LGBTQの人々への差別を禁止する法制度をつくるべきと思いますか。
- 9 貴方は同性婚を法的に認めるべきと思いますか。
- 10 同性婚を認めている国は現在29カ国、今後増えていくと思いますか。

「LGBTQの意識・理解度調査」 集計の報告とお知らせ



- ・ 第1回意識調査を9月に実施し、 538名の方にご協力を頂きました。
- ・ 全体、男女別、年代別等に分けて集計いたしました。

集計表は11月1日～18日にはフェスタinパルティ展示コーナーでご覧ください。

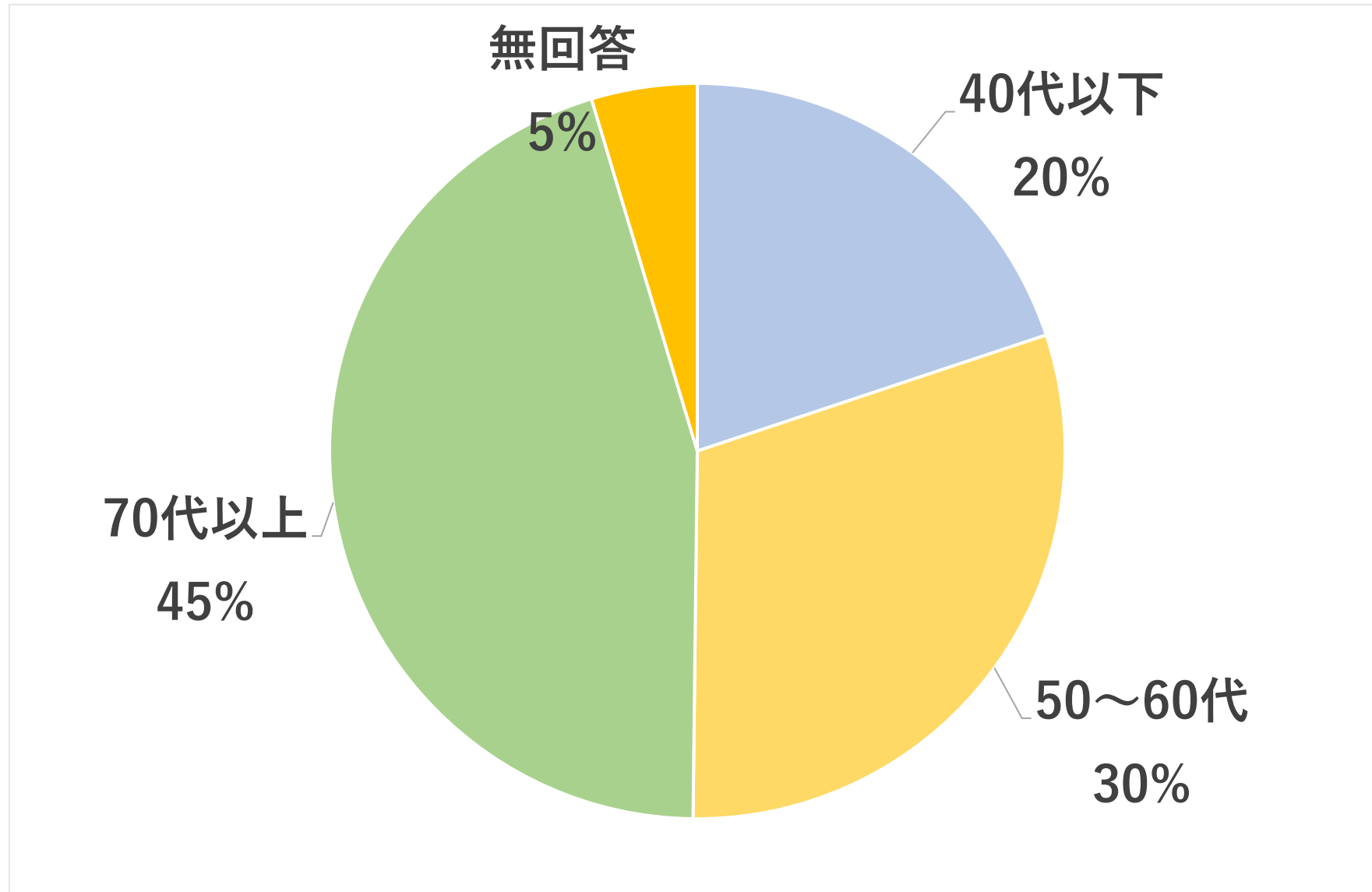
その後は、パルティ2階の当会事務局で保管していますので、関心のある方は当会事務局(028-665-7710)にお電話下さい。

(火曜日 10:00～16:00) 不在の場合もありますので予めご了承下さい

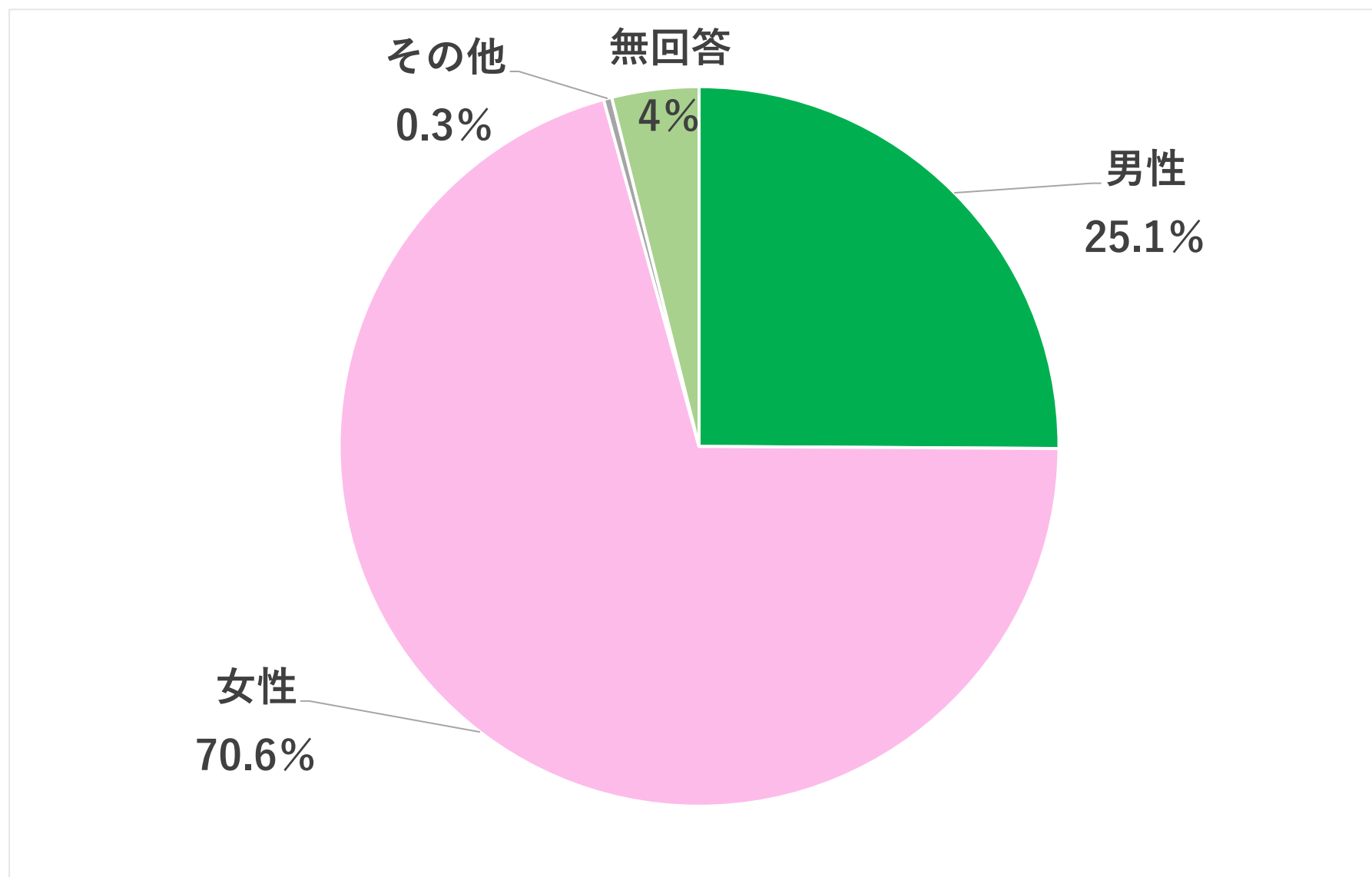
- ・ パルティ展示コーナーで「LGBTQへの意識調査チェック表」を展示しています。

機会がありましたら該当の番号にシールを貼って是非ご参加下さい。

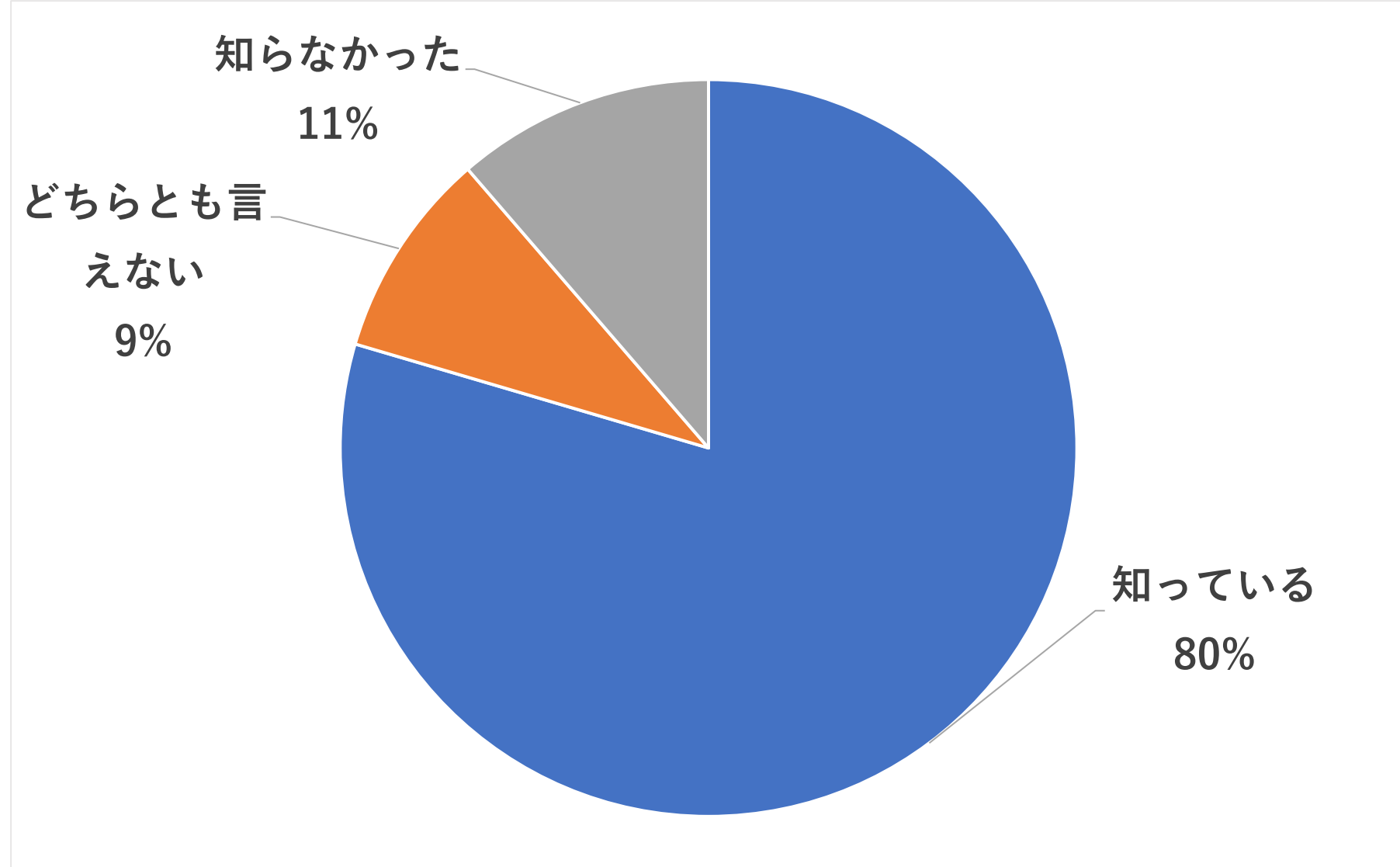
【年 代】



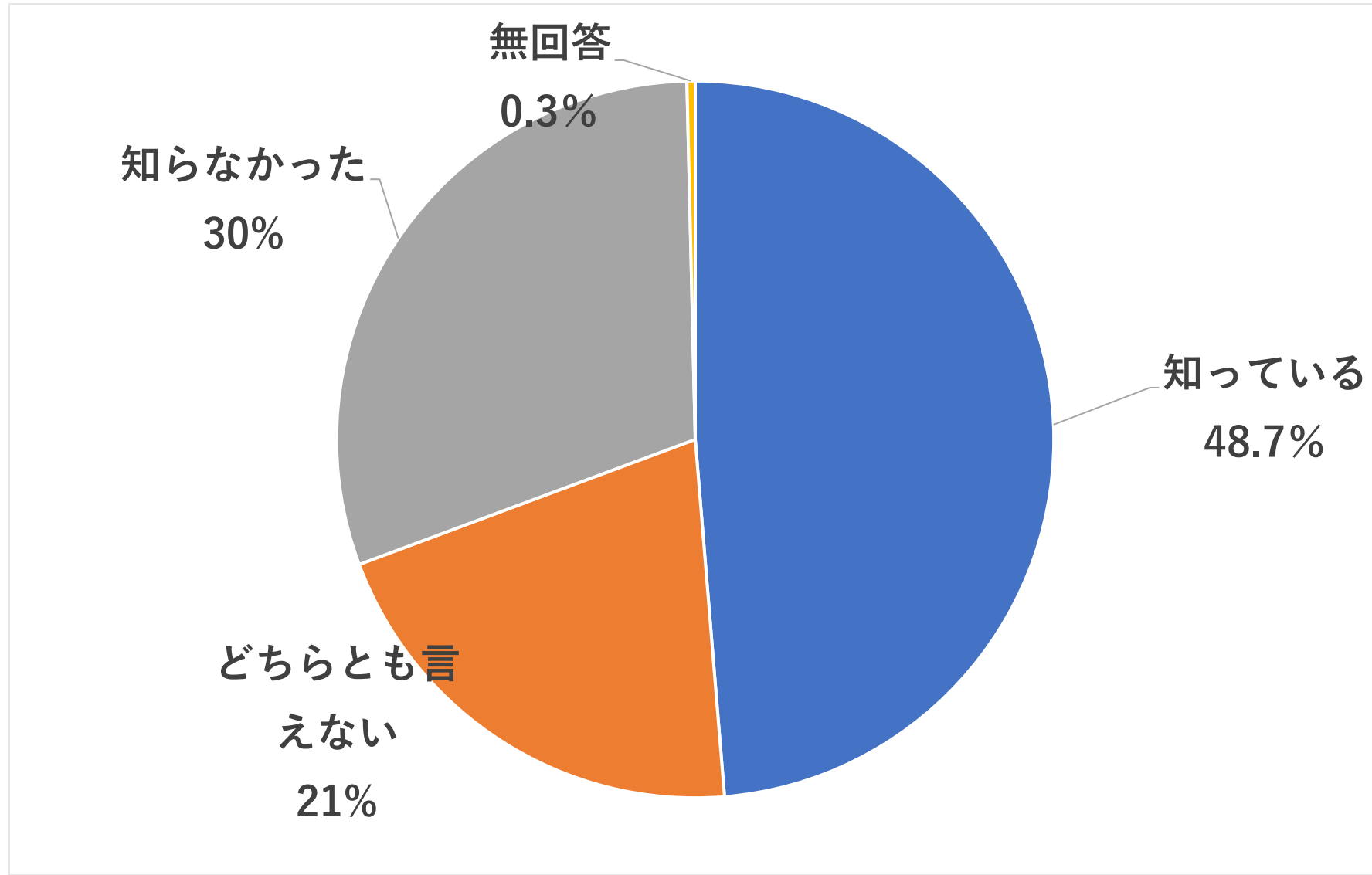
【性別】



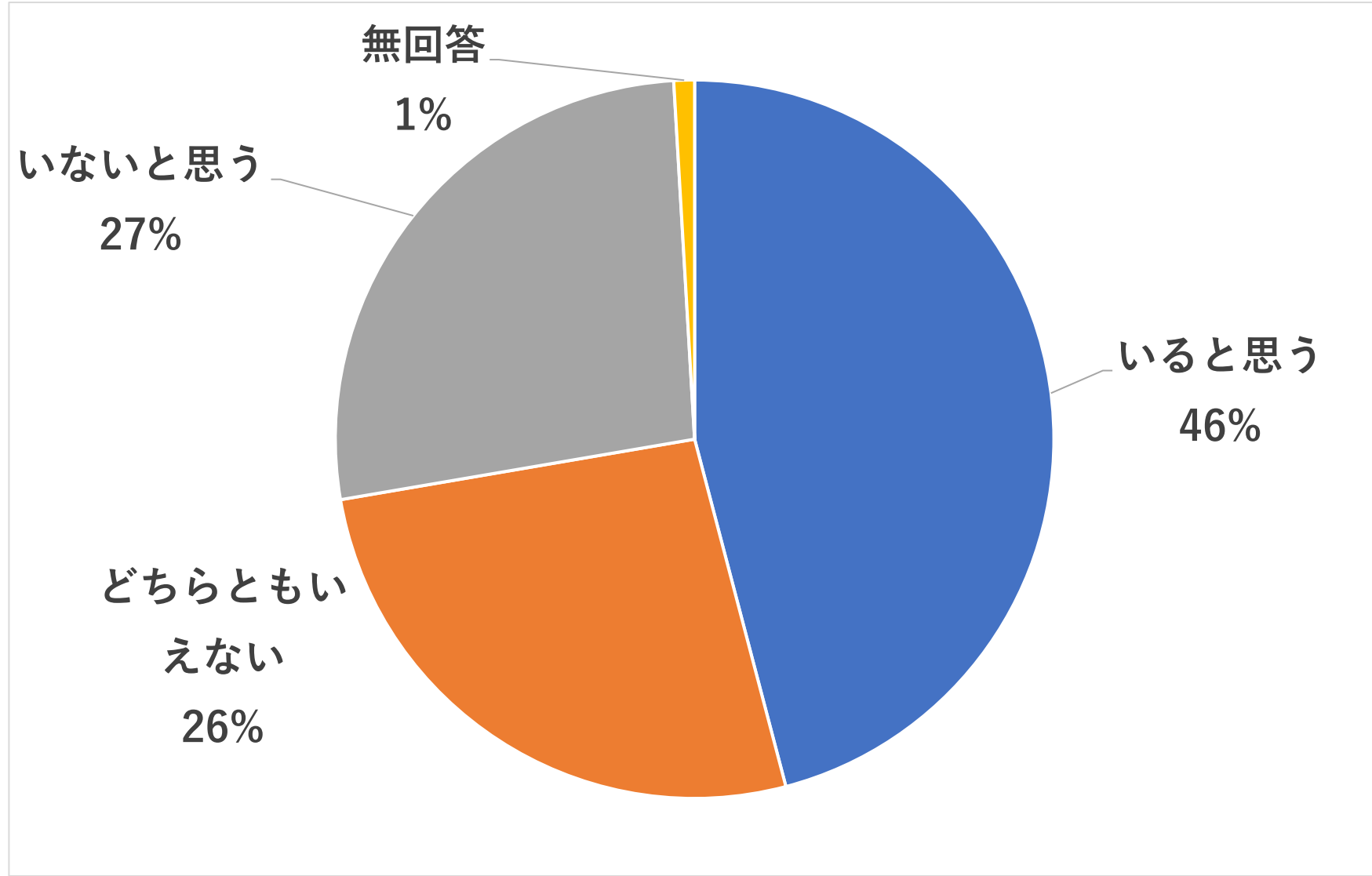
1, LGBTQ・性的マイノリティという言葉を知っていますか。



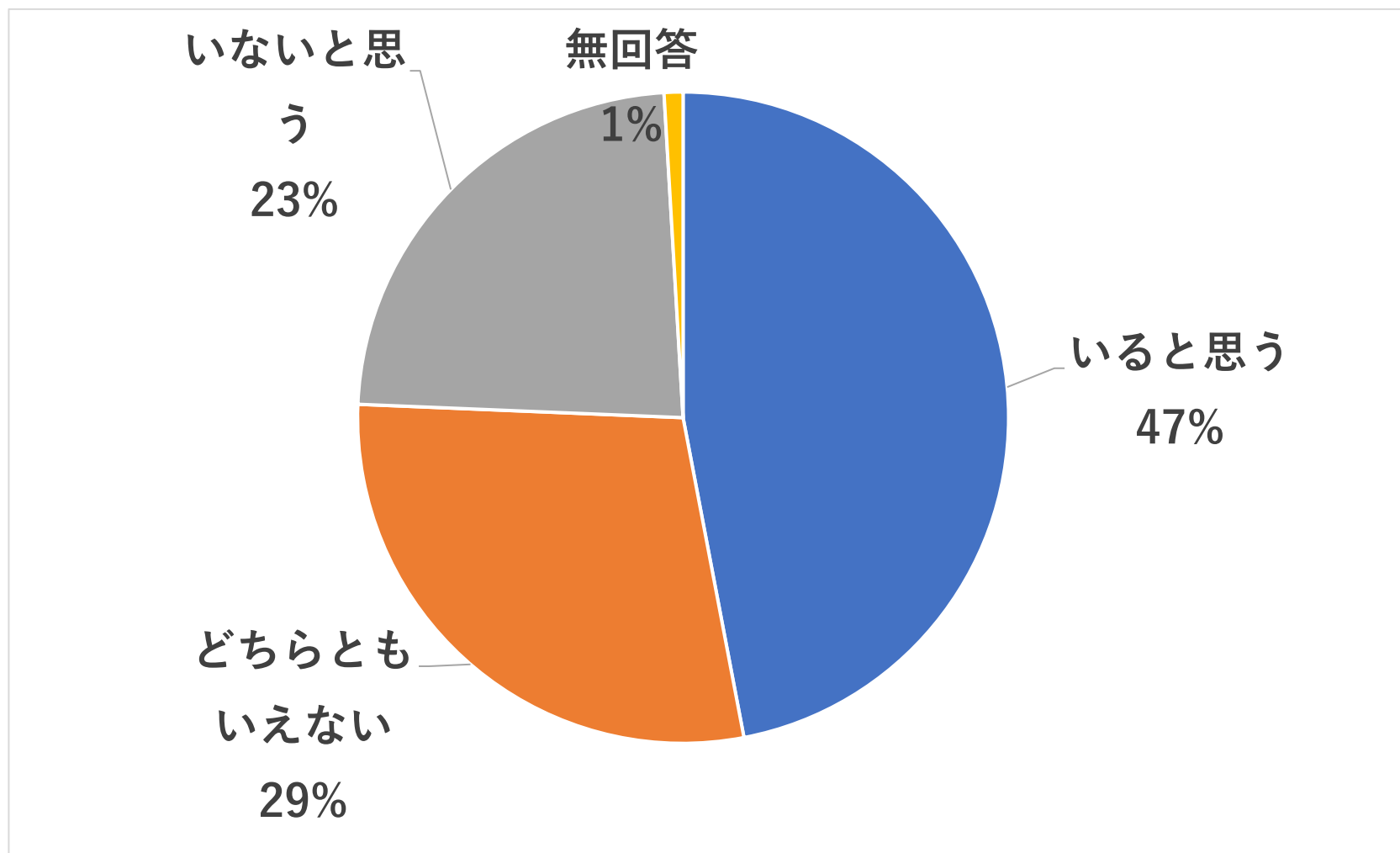
2、LGBTQって何の略かも知っていますか。



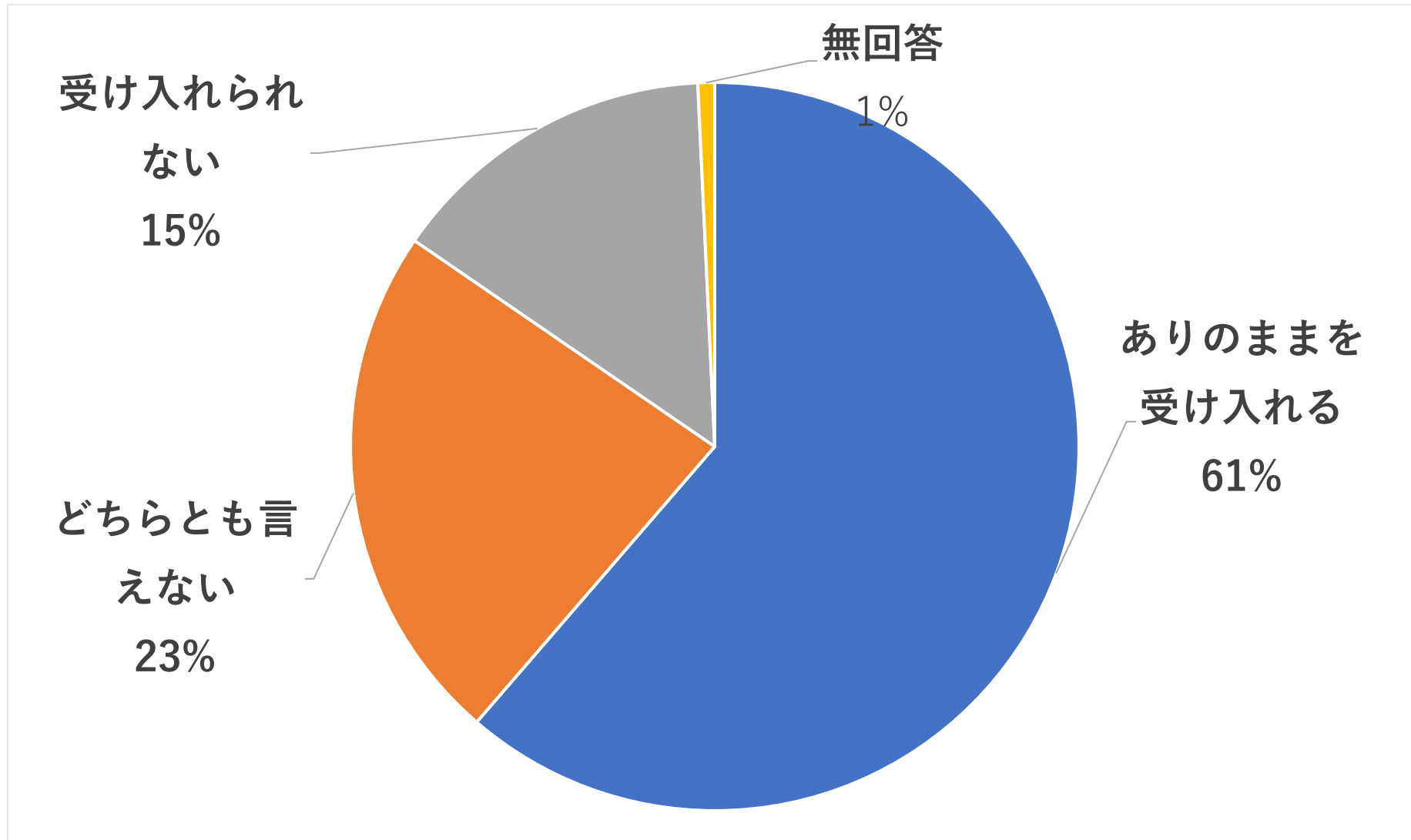
3、自分の周りにもLGBTQの人はいいますか。



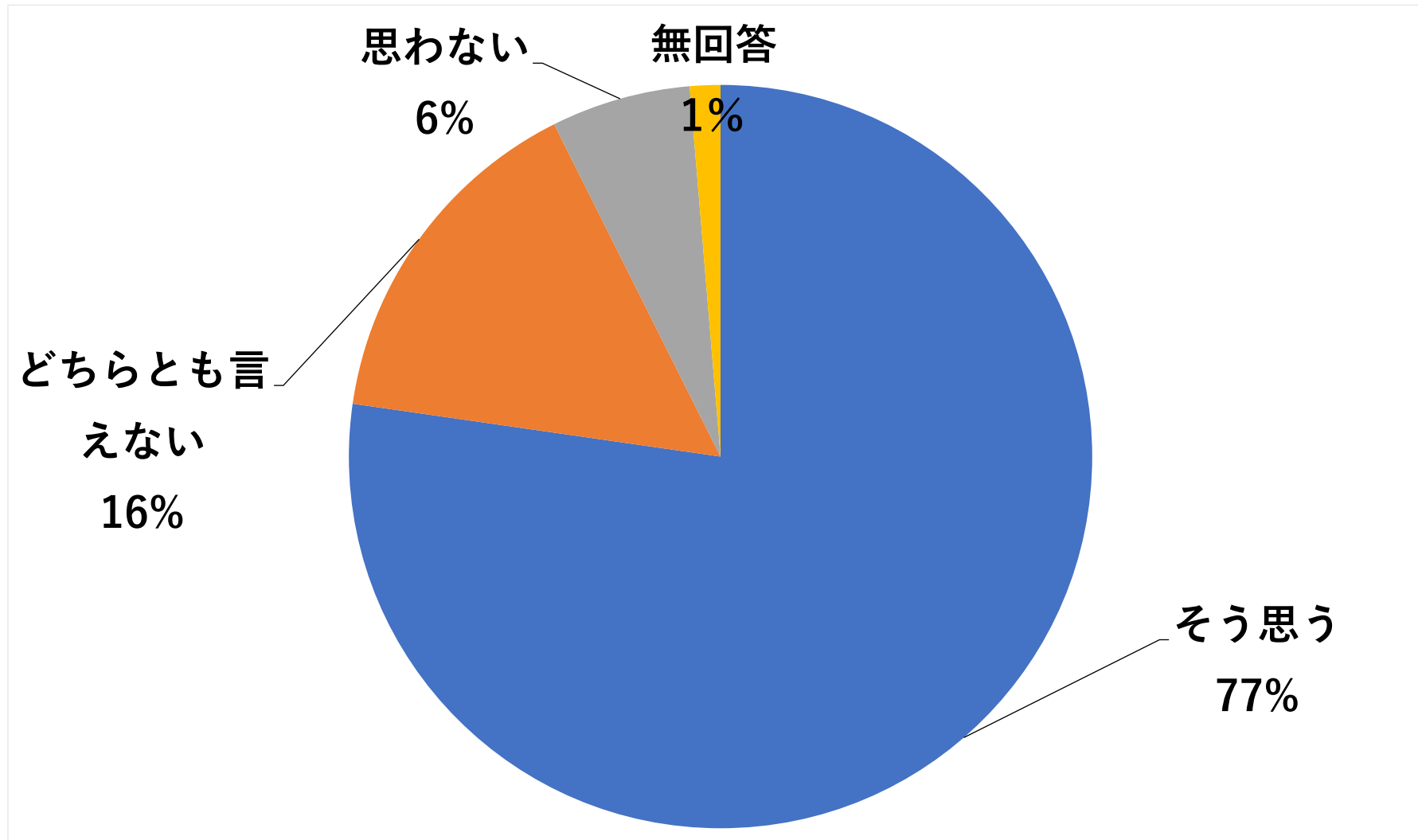
4、日本ではLGBTQの人は人口の10%
はいると思いますか。



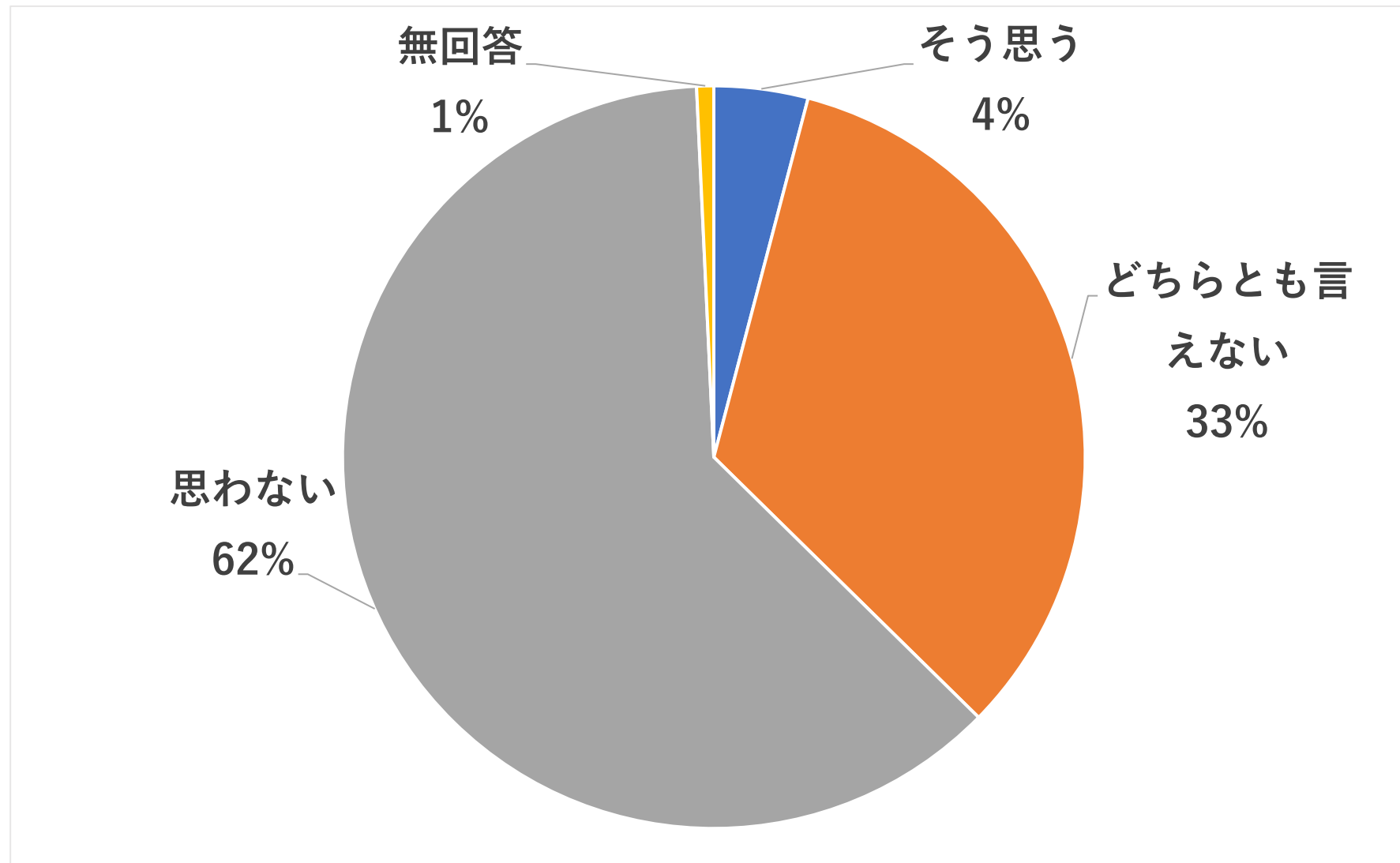
5、友だちからLGBTQのカミングアウトされたらどうしますか。



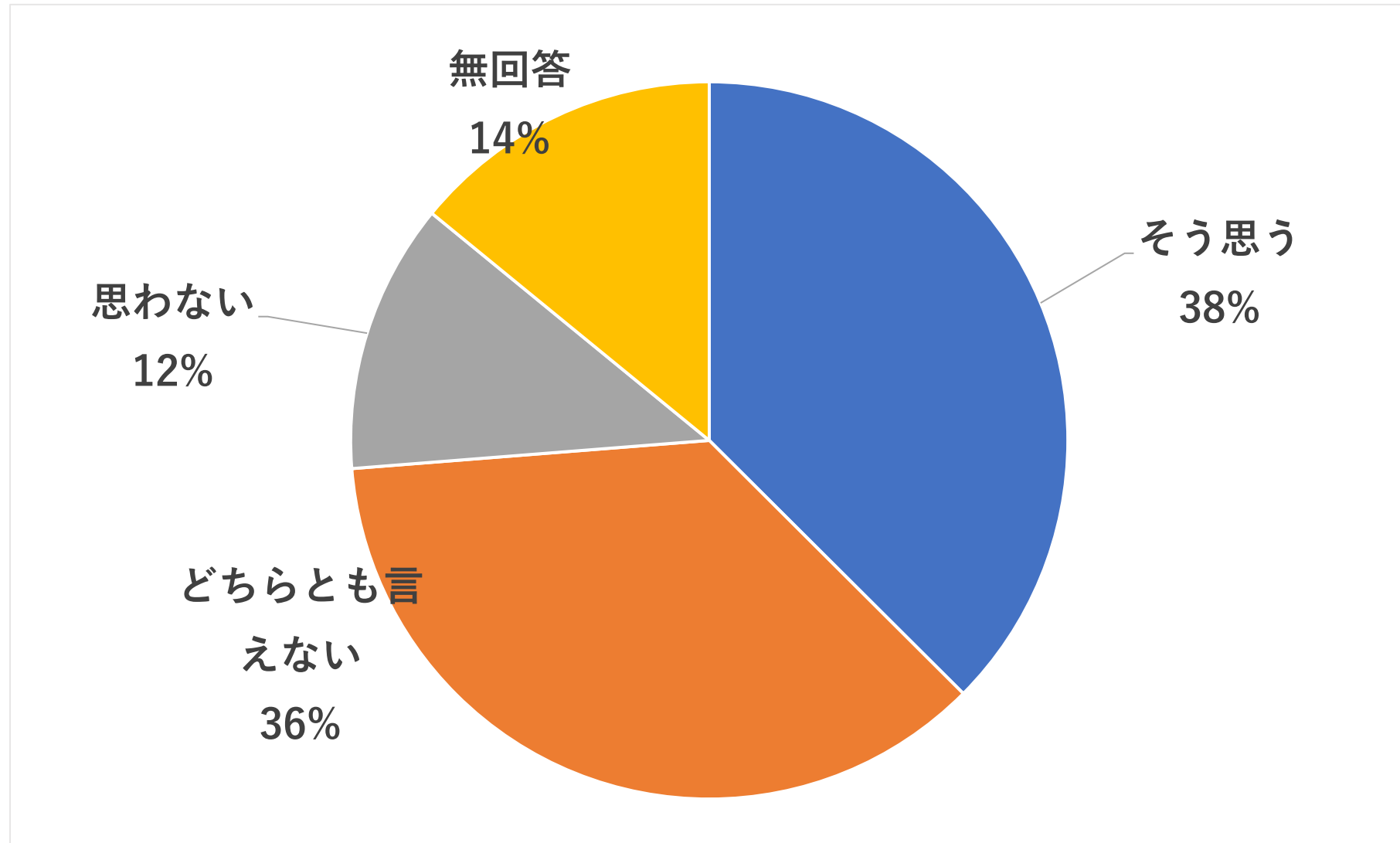
6, カミングアウトを受けても本人の同意なく他の人に伝えてはいけない。



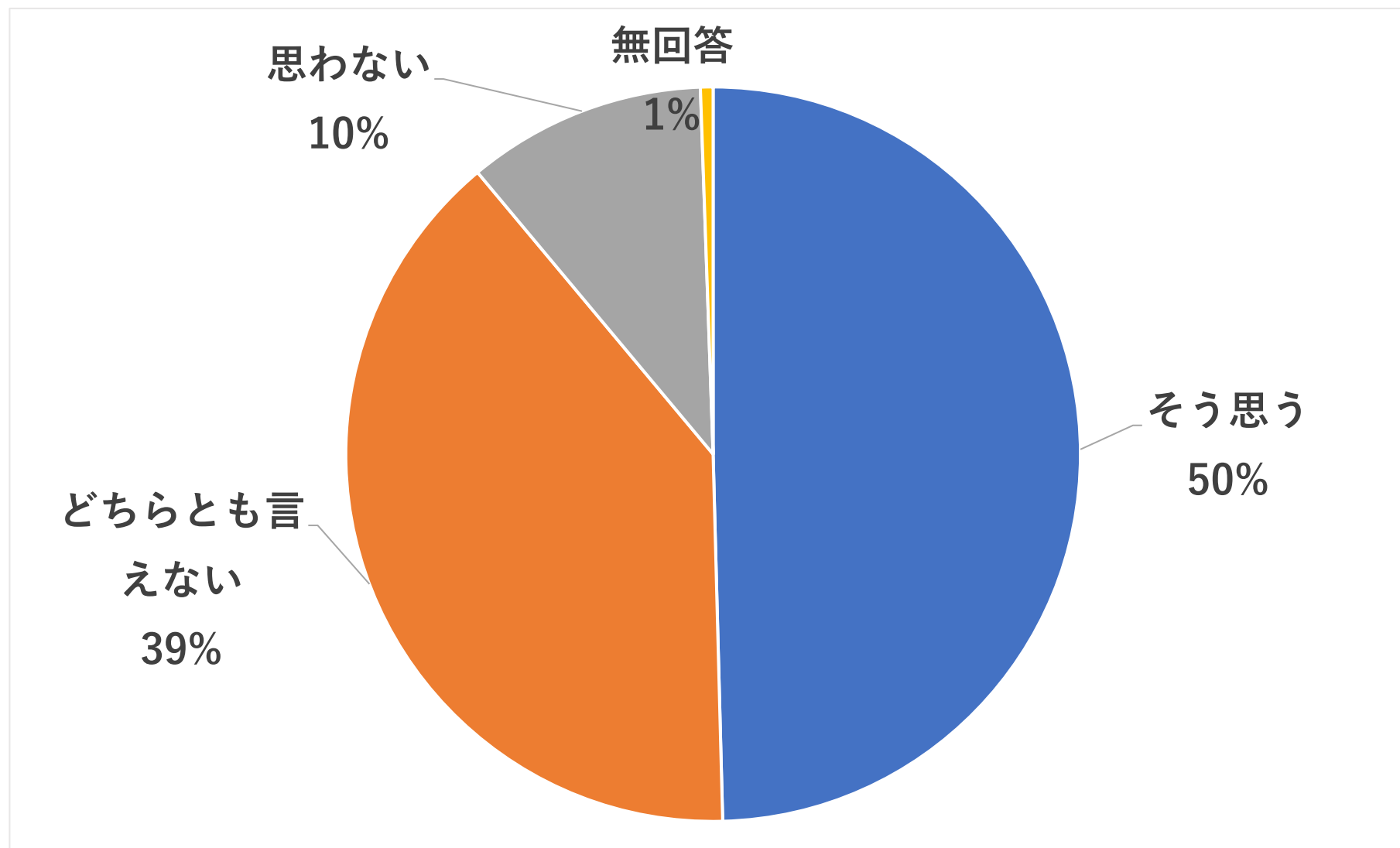
7, あなたはLGBTQは社会の中で十分に認知されていると思いますか。



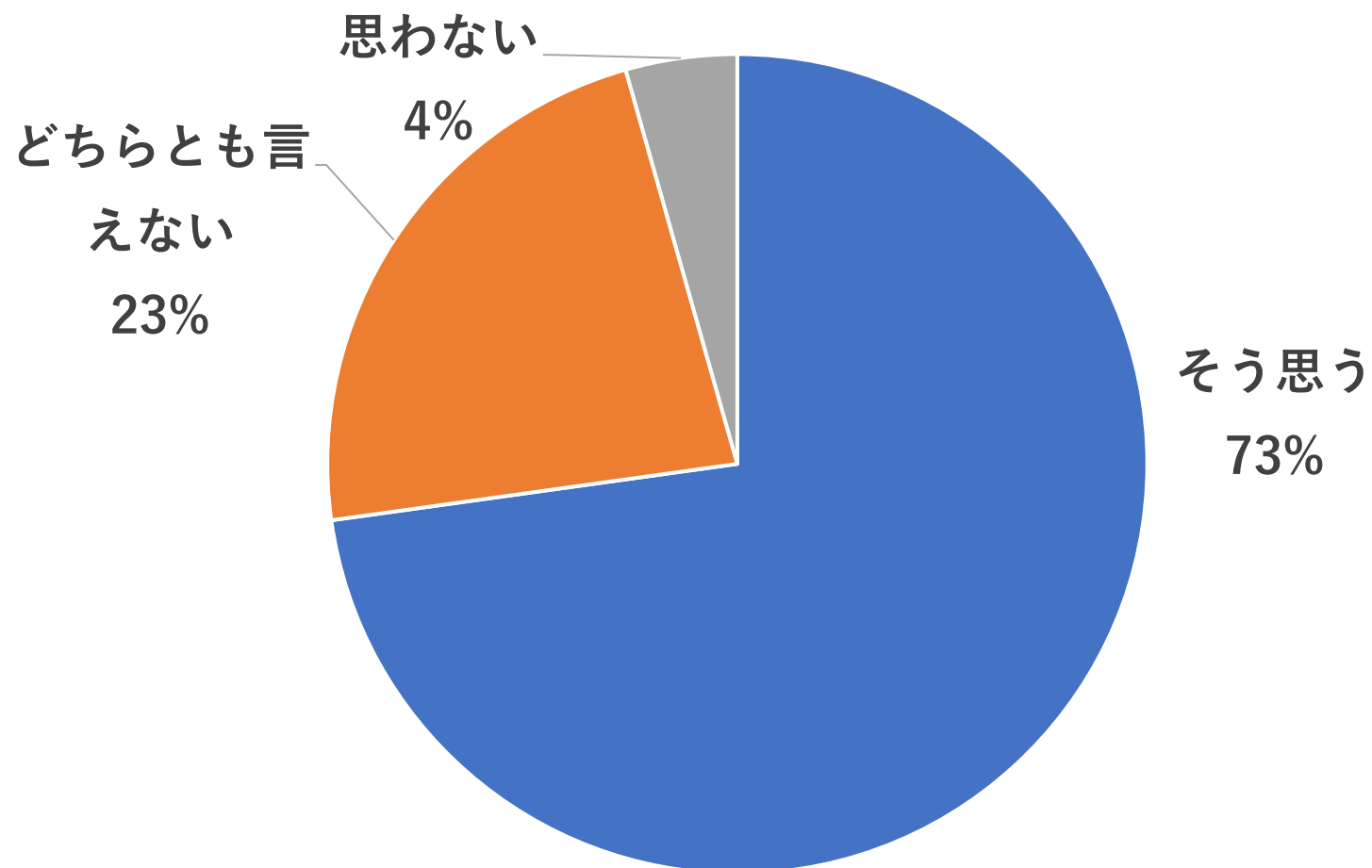
8、LGBTQの人々への差別を禁止する法律制度をつくるべきと思いますか。



9、あなたは同性婚を法的に認めるべきだと思いますか。



10、同性婚を認めている国は現在29ヶ国、今後増えていくと思いますか。



「意識・理解度調査」に寄せられた主なご意見を報告します

全ての団体から多くのご意見があり注目度の高さがうかがえました

☆時々耳にするが、何の略か理解して居なかったので参考になりました。

☆LGBTQの人々の権利は等しく保障されるべき。

その一方で、とりわけ公衆トイレや公衆浴場等の利用をめぐり「女性スペースが侵害されるのでは」という懸念も一部から出ている。こういう疑問を一律に差別とみなすのではなく、適切な啓発と対話で正しい理解を得ていく活動が求められていると感じる。

☆芸能人のカミングアウトがある度、カミングアウトしなくても当たり前前に気にしない世の中になればよいと思う。

☆LGBTQのみならず様々な意味での多様性や他を受け入れる事が広がっていくといいと思う。

☆これだけ少子社会になり、私たちはお互いをきちんと認めるべきだと思うが、まだまだ自分と異質なものを特別視する傾向は強い。人を守る法整備が必要なかもしれない。

☆LGBTQの方々が生きづらい世の中だと思いますが、少しずつ学校教育も含めてみんなが認知できる仕組み作りをしていくべきであると思う。

☆LGBTQの人たちはまだまだ社会に受け入れられていない。これからの運動の中で応援していきたいと思っている。

☆LGBTQの問題は法制度で解決するのではなく、根本的な教育の問題と思う。

☆同性婚の法制化のように、社会的認知が形になることは当人や家族に勇気を与えてくれる。

☆海外の事例を参考にし、法設置は慎重になるべき。トラブルも様々あると聞いていい。

☆本来、生命尊厳が第1である以上、あらゆる差別は許されることではない。しかし、法律や制度を作れば多様性を認める社会が出来上がるものでもない。LGBT法の先進国地域で法律の廃止を進める動きもあり、法整備は慎重であるべき点も無視できない。

2023「第1回グループ・団体活性化セミナー」実施

2023年10月27日(金) 13:30～15:30

パーティ301号室にて「2023第1回グループ・団体活性化セミナー」を実施しました。今回は「聴いて学ぶセミナー」から、一歩進めて「皆で語り合うセミナー」に。まずは代表のメンバーにそれぞれの立場から“ジェンダー平等への活動について語って頂きました。

その後、参加者全員で「私の“ジェンダー平等”」をお茶を飲みながら、自由に気取らず、ワイワイと賑やかに語って頂きました。

代表者6人の発表

- 1梅澤 啓子 生涯学習からスタートしたジェンダーへの取り組み
- 2木村 由美子 私のジェンダー平等への活動
- 3鈴木 悦子 方針決定への女性参画をめざす
- 4露久保美枝子 業者の中の男女平等～夫婦で古書店を営みながら見えたもの
- 5鈴木 節子 ジェンダー平等の活動の中で取り組んできたこと
- 6増渕 さつき ジェンダー平等への気づき

代表者の発表後、センターより「共育て」のお話がありました。

女連協と一緒に活動しませんか？



ジェンダーフリーの社会推進のために多くの人・団体の力を必要としています。
一緒に活動していただく人・団体を募集しています。

お気軽にご連絡下さい。

お問い合わせ 栃木県女性団体連絡協議会事務所 とちぎ男女共同参画センター内
電話028-665-7710 (火曜日 10:00~16:00)